

## 勝山市総合行政審議会（第14期第3回） 結果概要

開催日時：平成28年7月13日（水）

午後7時～午後9時

開催場所：教育会館3階 第2研修室

第3研修室

第5研修室

出席者等：11名

説明者：商工観光部観光政策課・商工振興課・

ジオパークまちづくり課

建設部上下水道課

農林部農業政策課・林業振興課

健康福祉部福祉・児童課・健康長寿課

事務局：総務部未来創造課

### 議 題

平成27年度勝山市政策基本目標管理外部評価について（グループごとの審議）

## 【Aグループ】 観光・まちづくり分野

### 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

#### 1.1. 市民が主体となったまちづくり

##### 1.1.2. 市民活動の推進 について

○説明者

- ・施策指標 エコミュージアム「市民学芸員」の登録人数について、本日欠席の委員より意見をいただいているので紹介する。

「市民学芸員」とはどのような制度で、今後の方針はどのようにするのかお伺いしたい。

○説明者

- ・市民学芸員については、総合計画の中に定義があり、観光客等の市外からの来訪者に対し、勝山市の自然、歴史、産業など魅力を伝えることができる市民のことで、「かつやまふるさと検定」の合格者をもって、そこに位置づけることとなっている。

平成21年度の第1回かつやまふるさと検定時には250人もの受検者があった。その後、平成25年度まで実施したが、受検者数は10数人にまで減少した。平成26年度は検討の年とし、平成27年度に向けた勝山市民大学・さわやか大学でのPRや小中学校への呼びかけ等を行い、「ふるさと検定子ども編」も新設して実施したが、子ども編の受検者数は5人に留まり、全体としても受検者増加には至らなかった。

この状況を踏まえ、今後市民学芸員制度のあり方について検討していきたい。

●委員

- ・市民学芸員の数値目標はどうやって定めたのか？

○説明者

- ・第1回かつやまふるさと検定の受検者が250人あったことから、毎年合格者が50人ずつ増えていくと仮定した。一方でジオパークガイド養成講座も実施しており、現在までに約40名が受講されている。また、観光ガイドボランティアの方々もいらっしゃるが、いずれも市民学芸員としてはカウントしておらず、それも含めて今後検討させていただきたい。

●委員

- ・人数が少なくても市民学芸員の方がストックされていれば、毎年増えてはいかないまでも今後、役に立つのではないか。

○説明者

- ・現状では市民学芸員の活用がうまくできていないが、ガイド養成講座を受講いただき、今後ジオパークガイドとして活躍していただく方を増やしていく方が意味があると考えている。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 1.3. 多様な交流活動の推進

#### 1.3.1. 恐竜を活かしたまちづくり（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク）について

●委員

- ・恐竜渓谷ルートの整備、活用について、恐竜渓谷ルートの整備の現状はどうか。

○説明者（ジオパークまちづくり課長）

- ・恐竜渓谷ルートとは、野向町薬師神谷から杉山の恐竜化石発掘現場までをつなぐルートのことである。案内看板をルートのポイントごとに設置し、それを辿っていくと杉山の発掘現場まで行けるように整備している。恐竜街道として、道沿いにネムの木を植えており、杉山の元住民の方々に世話をしてもらっている。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

1 3 3. 都市間交流（国内）の推進 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

1 3 6. 官学連携事業の推進 について

●委員

- ・施策指標 年間の学生合宿者数について、目標は達成しているようだが、関西からの学生が多いのか。

○説明者

- ・関西の大学生や一部高校生も利用されておりとても人気がある。宿泊は勝山ニューホテルを使うことが条件となっている。県と市から500円ずつ合計1,000円の補助を受けることができる。しかしながら、夏休みやゴールデンウィーク、スキーシーズン等の繁忙期に一般観光客が宿泊できない弊害が出てきており、今年度から、繁忙期は補助しないように変更している。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

1 5. 各地区、各集落の地域力向上の実現

1 5 1. 市民が主体となった地域力の向上 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

### 3.4. 商工業の振興

#### 3.4.1. 活力ある商業経営の支援 について

##### ○説明者

- ・施策指標 市内の小売業流出入比率について、本日欠席の委員から質問をいただいているので紹介する。

未達成となっているが、「市内での消費拡大事業に対する支援」という重点項目において夏得ぐるりんキャンペーンという取組みを行っている。これはどのようなものか。

##### ○説明者

- ・毎年夏休み前から実施するキャンペーンであり、スキージャムへ行く有料道路料金を半額にし、なおかつ残り半額分をスキージャム内で使用できるチケットして配るという内容である。福井県と勝山市が連携して毎年行なっている事業で、市内飲食店からも協賛いただき、パンフレットにスタンプラリー応募券や飲食店で使える割引券等もついている。スキージャムに来る観光客を市内に誘導し消費拡大につなげることが目的である。今年は大野市とも協力し、大野市内の飲食店等も対象になっている。

なお、冬場はスキーシーズンということもあり、スキージャムでは翌シーズンに使える半額リフト券等を配布している。

##### ●委員

- ・商工会議所との連携強化について、プレミアム商品券事業では、アンケート結果によると商品券使用額の1.06倍の効果があつたと記載されているが、これについて説明をお願いしたい。

##### ○説明者

- ・これは利用者アンケートの中で、商品券利用時にいつもよりどのくらい多めに物品を購入したかという質問項目から集計した結果である。プレミアム商品券事業は、国の緊急的な経済対策として急遽決まったもので、勝山市の独自事業ではなく全国一律で実施されたものであるため、評価の難しい事業である。どうしても大型商業施設で利用される率が高いので、小規模店でしか使用できない商品券をチケットの中に織り混ぜる等の工夫をした。

##### ●委員

- ・この事業に対する数値目標は設定していないのか。

##### ○説明者

- ・全国一律で実施した国の緊急的な経済対策事業であったため、特に勝山市独自の数値目標は設定しなかった。

##### ○説明者

- ・まちなかへの出店促進と経営支援について、欠席された委員から質問をいただいている。おもてなし商業エリア内にある個店の改修等に対し、市が補助をしているということだが、これらの個店を連携させて市内での消費拡大につなげる取組み等は考えていないのか。

○説明者

- ・まず、おもてなし商業エリアについては、県の補助事業を活用しているハード事業であり、観光客を対象とする飲食店等をバックアップするものである。県は中心市街地のみをエリアとする考えだったが、勝山市は主要観光地が市街地周辺に位置しているため、県と折衝し、エリアを中心市街地より拡大して設定した。現時点ではこのエリア内で改修を行なった個店が個別で観光客にサービスしていくことがメインである。連携については今年度からソフト事業に移行していくため、その中で検討していきたいと考えている。

○説明者

- ・同じ項目に対して他にも質問をいただいている。  
おもてなし商業エリアの設定はどのように決められたのか。また、土日は飲食店が賑わっているが、平日は閑古鳥が鳴いている。今後、インバウンドや修学旅行を誘致するなどして平日に飲食店が賑わうような取組みは考えていないか。

○説明者

- ・おもてなし商業エリアの設定については、県から1/3の補助金をいただいており、折衝を行なって現在のエリアを設定した。県は、狭いエリアで集中的におもてなしに向けた店舗の改修を実施したい考えで、当初は市役所周辺と本町、後町を中心としたエリアを想定していた。しかし、このエリアに限定すると4・5軒の飲食店しか対象にならない状況であった。また、勝山市に来る観光客はほとんどが車を利用し街道沿いに入ってくることから、県と折衝する中で精一杯エリアを拡大した結果、現在のおもてなし商業エリアの設定に至った。勝山市全域を指定できない以上、エリアから外れる個店はどうしても出てしまうと認識している。このエリアを中心に観光客へのおもてなし体制を図っていききたいと考えている。飲食店等における平日と土日の入込客数の差については、平準化が必要だと認識している。ご質問はインバウンドや修学旅行の誘致により平日の入込客を確保できないかということだが、残念ながらインバウンドや修学旅行で来られる人たちは、市内の飲食店をほとんど利用することがない。土日に車で来られる観光客に対し、北陸新幹線を利用して電車で勝山へ来ていただくようアピールすることや、経済的に余裕のあるシニア層・女性層をターゲットに白山平泉寺やゆめおーれ勝山などを積極的にアピールすることで、観光客の平準化につなげたいと考えている。

●委員

- ・勝山に来られる方の最大の目的は恐竜博物館である。福井県の観光として、恐竜博物館に滞在後永平寺に寄り、芦原温泉に宿泊する場合、市街地に立ち寄る時間がないのではないかとと思うが、市の見解はどうか。

○説明者

- ・昨年、勝山市を訪れた観光客は200万人で、そのうち恐竜博物館とスキージャンプ関連には約130万人が訪れているが、この人たちは市街地へは寄ることがない。そこで、車で日帰りされる観光客の対応策として、現在勝山インター線を建設中であるが、この橋のたもとに道の駅を建設する予定である。また、これに先行して恐竜博物館前に観光交流センターの物販飲食施設の建設を予定しており、さらに、まちなか誘客施設として花月楼の改修を予定し

ている。これら施設を整備することにより、車で日帰りされる観光客をしっかりと捕まえるよう対応していく。なお、これらの施設は、すべて先月設立された勝山市観光まちづくり株式会社が実務を行っていく。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 4 2. 地元企業への支援 について

●委員

- ・ものづくり技術・研究開発支援制度の充実について、「逸品開発事業」や「わがまち助成事業」は補助制度に違いがあるので、それぞれに分かれているということなのか。

○説明者

- ・これらの事業はそれぞれ目的が違う。「ものづくり技術・研究開発」は商工振興課が担当し、地元のものづくりに対する支援を行っており、最終的には勝山の土産物を開発するという目的もある。「逸品開発」は農業政策課が担当し、農業振興の観点から勝山市の農産物を加工し、6次産業化も視野に入れて商品を開発している。また、「わがまち助成事業」は市内各地のまちづくり活動を行う団体を支援するもので、この活動から開発された商品も多い。入口部分は企業支援・農業振興・まちづくりに分かれているが、どれも結果的に土産物につながるような商品開発に結びつく。勝山市が目指す観光の産業化につながる取組みでもある。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 4 3. 起業家の育成・支援 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 4 4. 企業誘致の推進 について

●委員

- ・市外へ向けての企業誘致活動の推進について、企業誘致の対象は県外企業をターゲットにしているのか。

○説明者

- ・対象は東京・大阪・名古屋・岐阜等がメインだが、県内企業を排除してはいない。しかし、県内の景気等を考えると厳しい状況だと考えている。

●委員

- ・勝山市へ企業を誘致する際の目玉は何か。

○説明者

- ・一般論ではあるが、まず水がきれいであることである。自然豊かであることはポイントが高い。また、北陸電力管内は電気料が安く、さらに中部縦貫自動車道が開通すれば東京からの最短ルートになり中京圏はかなり近くなる。また、日本の地震の巣から外れており、安定した地盤にあることは、リスク管理の面からメリットであると考えている。

○説明者

- ・企業誘致に関して欠席委員から質問をいただいている。

施策指標 市外からの企業誘致による新規雇用者数が達成されていないが、その理由は何か。また、目標はどのように設定したのか。

○説明者

- ・10年以上、企業誘致に成功していない。この期間は企業が大量に海外へ進出し、人件費の問題等で国内の企業誘致が厳しい状況であった。代わりにこれまで市内企業の増設等への支援に力を入れてきた。地場企業が市外へ出て行かないよう、しっかりと根を張ってもらうことも重要な施策として推進してきている。

○説明者

- ・もう1点質問をいただいている。

勝山市内の企業は人手が足りないという現状がある中で、若者は市内に魅力のある企業がないとして市外に出て行っている。このミスマッチの状況への対応はあるか。

○説明者

- ・ミスマッチの対応は大変難しい。最近でも市内大手企業のマイランとフクタカで30人程度の求人募集を行なったが、市内からはほとんど応募がなかった。結局、大野市や近隣市町から人員を雇用している。昨年、ハローワーク大野と雇用対策協定を結び、県外への雇用情報発信を強化した。勝山出身の県外在住者にも分かるようにハローワークのネットワークを活用している。また、県外へ進学している学生に市内企業のパンフレットを送付したりしているが、この問題への対応は非常に難しいと考える。

●委員

- ・勝山市ではインターンシップを実施しているのか。私の地元の鯖江市では、どこが主催なのかは分からないが、非常に自由でわかりやすいインターンシップ募集をしている。特に大学1年生でも4年生でも参加することができる。また、留学生も参加できるため福井工大としても非常に使い勝手が良く、参加しやすい制度となっている。

○説明者

- ・ぜひ勝山市でも鯖江の制度を研究して参考にしたい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 35. 観光の振興

### 351. 着地型観光による誘客の推進 について

#### ●委員

- ・まちなかの魅力と賑わいの創出について、昨年 DINO-A-LIVE の入場者数が目標の3万人に達しなかったようだが、今年は駐車場の関係からジオアリーナで開催する予定ということで期待している。

#### ●委員

- ・この目標3万人はどのように設定されたのか。

#### ○説明者

- ・昨年は24日間開催したが、会場が市民会館であり、そのキャパシティと日数から逆算して設定した。しかし、市民会館の場所が分かりにくいことと、駐車場が少ないことが課題となった。そのため、今年度はジオアリーナでの開催に至った。ただし、まちなかへの誘客にどうつなげるかは課題である。

#### ●委員

- ・恐竜博物館から DINO-A-LIVE へ来る方は多いのか。

#### ○説明者

- ・やはり恐竜関係は人気が高い。昨年はシルバーウィークに長尾山公園内に特設テントを立てて開催したが、恐竜博物館に近いことから大盛況であった。今回はジオアリーナが会場となり、博物館から離れているため、どのように人の流れを作るかが課題である。

#### ●委員

- ・恐竜博物館では子ども達を対象に恐竜に関する知識を競わせて、恐竜博士として認定するような制度はないのか。恐竜好きな子ども達の知識の広さには驚かされるし、勝山で認定されるということにはステイタスが高いことだと思う。

#### ○説明者

- ・恐竜博物館と連携を図りながら検討してみたい。

#### ●委員

- ・DINO-A-LIVE に限らず、市のイベント告知等について、若者の立場からするとツイッターやライン、インスタグラムで発信した方が情報を知りやすいし、拡散しやすい。市はFacebookでの情報発信を行なっているようだが、若者はあまり使わないし、拡散力が弱いと思う。若者が親しみやすいSNSを使ったほうが広がりやすいし、検索もしやすいと思う。

#### ○説明者

- ・今年の DINO-A-LIVE の告知を拡散させてくれる人を内覧会に招待する企画を考えている。ツイッターやライン、インスタグラムについても対象にするよう検討したい。

#### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。



### 352. イベントや環境整備による賑わいの創出 について

●委員

- ・観光PRツールの作成について、具体的にどのようなものを作成したのか。

○説明者

- ・恐竜をモチーフにした5枚組の観光用の大型ポスターを作成した。主に県外PR用である。もう一つは美しい写真を多用した左義長まつりPR用のパンフレットを作成した。

●委員

- ・勝ち山ワッショイの代わりとなるパフォーマンスは考えているのか。

○説明者

- ・まちなかの賑わいを取り戻すため、花月楼の周辺でLEDやろうそくを並べて、街歩きやイベントを開催する「灯りまつり」を計画している。今年度の旧盆4日間に本町通・河原町通にいろんな灯りを並べ、タップダンスやブレイクダンスのようなパフォーマンス、ジャズコンサートも考えている。

○説明者

- ・パフォーマンスについては今年いろいろ集めてみて、その中から来年度に向けた方向性を探っていきたい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 353. 観光営業の強化 について

●委員

- ・市内案内看板等の効果的な設置については、検討継続ということだが原因は何なのか。

○説明者

- ・費用がかかることと、多種多様な看板があり、デザインの統一が難しい。中部縦貫自動車道の開通をにらみ、市内への案内看板も配置等から考える必要がある。また、ジオパークとの関連も配慮する必要がある。もう少し時間が必要だと考える。

●委員

- ・外国人誘客のためのパンフレット作成とあるが、具体的にはどのようなものを作成したのか。

○説明者

- ・欧米の方に寺社仏閣が人気があるということであり、白山平泉寺の英語表記のパンフレットを作成した。

●委員

- ・最近YouTubeでの動画による日本の観光地案内が大変人気であり、その効果もあって地方にまで外国人観光客が押し寄せている。欧米だけでなく東南アジア方面にも人気が及んでいる。金沢までは多くの外国人観光客が訪れているので、勝山市でも英語で動画を作成し、恐

竜博物館や平泉寺をPRすれば多くの外国人観光客を呼び込めるはずである。自治体関係でも最近では取り組んでいるところが増えている。パンフレットの英語版だけではなく、動画や看板も外国語対応を考えるべきである。

○説明者

・是非検討したい。

●委員

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

#### 3 5 4. 広域観光の展開 について

●委員

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

## 第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

### 5 3. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進

#### 5 3 3. 自然体験学習・ジオパーク学習の推進 について

●委員

・市民への学習機会の提供について、調書によると市民のジオパークへの認知度がまだまだ低いということか。

○説明者

・認知度はまだ十分ではない。今年度は昨年よりも市民総合大学での講座回数を増やし、公民館での学習会の回数も増やすなど、少しでも多くの市民にジオパークを知っていただく取組みを進める予定である。身近にある自然・地形の成り立ちに始まり、その上で営まれてきた人の暮らし、文化等も含めた一体的なジオパークという考え方をわかりやすく示していきたい。また、小中高校に対しても学習機会の提供をさらに進めていく予定である。

●委員

・ジオパークのガイドブックやパンフレットをいくつか拝見したが、内容が少しわかりにくかったように思う。エリアが3つに分かれていて、それぞれに説明があったが、全体をまとめて一目でわかるような工夫があっても良いのではないか。

○説明者

・一昨年度、恐竜の森内にジオパークビジターセンターを設置した。こちらでは勝山市のジオ

パーク全体がわかりやすく表示しており、案内業務もさせていただいている。恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークのホームページも作成しているので、そちらでも詳しく説明させていただいている。モデルコースもいくつか紹介している。ジオガイドによるジオツアーも開催しており、そちらに参加していただくと楽しくジオパークを学ぶことができる。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 【Bグループ】 農林業・建設分野

### 第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

#### 3.1. 農業の振興

##### 3.1.1. 集落を基盤に考える地域の事業の振興 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

##### 3.1.2. 循環型農業を基軸とした勝山型農業の推進 について

●委員

- ・施策指標 直売所等の年間利用者数について、未達成となった要因は何か。

○説明者

- ・まず、実績の数字については直売所への聞き取りにより算出しており、正確さに疑問がある。また、販売者の高齢化が進んでおり、販売頻度が落ちたことも利用者数が減少した要因の一つだと考えている。平成27年度からは直売所加工所連絡会を結成し、道の駅における販売に向け、盛り上がりを図る活動も実施している。

●委員

- ・目標値の見直しはしないのか。

○説明者

- ・現状を分析しながら見直しを検討していきたい。

●委員

- ・直売所は具体的にどのような場所があるのか。

○説明者

- ・平泉寺大門市・大渡ふれあい市場・野向風の郷・荒土の日曜市などがある。

●委員

- ・サンプラザの太陽市は含まれていないのか。

○説明者

- ・太陽市は含まれていない。

●委員

- ・直売所の年間利用者数を指標にするのではなく、売上額にした方がよいのではないか。

○説明者

- ・売上額については、直売所によって教えてくれないところがある。ただし、今後の参考データとして売上額をできるだけ把握するようにしたい。

●委員

- ・田舎暮らし体験事業の推進について、受入れの年齢制限を外して若者や子どもの参加が増加したとあるが、親子連れが増加したのか。

○説明者

- ・そうである。特に10代が平成26年度：8%から平成27年度：40%に増加している。

●委員

- ・移住は家族単位となることが多いので、田舎暮らし体験による子どもの気持ちというのは大きな要因となる。年齢制限を外したことで親子連れの体験の増加につながったことは非常に評価できると思う。また、勝山市の田舎暮らしは農業体験という傾向にあるが、それだけでなく、アユ釣りが全国的に有名であることから、夏場だけ別荘の様にシェアできる場所等をアピールしても良いのではないかと。アユ釣りに限らず、勝山の様々な要素を田舎暮らしの素材として考えるべきだと思う。そのためには、農業政策課だけではなく色々な関係課とタイアップしていくと良いのではないかと。

○説明者

- ・移住定住を目的とした古民家の活用等、横の連携を密にして取り組んでいきたい。

○説明者

- ・移住定住の観点から申し上げますと、アユ釣りや移住はなかなか結びつかないが、現在は二地域居住をされる方も増えてきていると聞く。勝山においても、アユ釣りの期間に空き家をシェアするケースもあると聞いている。

●委員

- ・民間では、いろんな仕組み作りを考えている人いるので、それを市も関わって一緒に連携していけると良い。

●委員

- ・昨年、地域おこし協力隊として1名雇用したが、すぐに退職したと聞いている。その後、追加要員はあるのか。

○説明者

- ・去年5月に1名雇用したが、10月に家庭の事情で辞められた。市としては2、3名体制としたいと考えており募集をしているが、今のところ応募はない。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 1 3. 経営効率化に資する生産基盤・農業用施設の適正な機能の確保 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 1 4. 鳥獣害防止対策の推進 について

#### ●委員

- ・ 獣肉解体処理施設の調査、研究について、市や嶺北地域の方針はどうなっているか。例えば若狭のジビエ工房のような規模を考えているのか。

#### ○説明者

- ・ 県が嶺北地域に提示している計画は、食肉加工と焼却を両方備えた施設の建設である。平成 27 年度に奥越の担当者が嶺南地域有害獣処理加工施設を視察したが、食肉加工施設が計画の 1～2 割程度しか稼働できていなかった。現在の状況ではランニングコストがかかりすぎるため、県へ計画の見直しを要望している。

#### ●委員

- ・ 奥越で大規模な施設を作る予定はないということか。

#### ○説明者

- ・ 食肉加工施設については、捕獲して血抜き処理後、1 時間以内に施設に運搬できないと商品にならないと聞いている。奥越地区としては、福井市や越前市に嶺北地域の施設が建設された場合、加工施設の利用はほぼ不可能だと考えている。

#### ●委員

- ・ 焼却施設の規模を大きくするという方針でも良いのではないか。

#### ○説明者

- ・ そう考えている。そのため、県が進める計画の見直しを要望する。

#### ●委員

- ・ 施策指標 被害面積の抑制について、共済面積で計上されている作付面積から考えると、1% 以内という目標は非常に厳しい数字ではないか。また、平成 26 年度はクマやサルの出没が非常に多い年であったのに対して平成 27 年度はそうではなかったと思うが、被害面積が増加した要因は何か。

#### ○説明者

- ・ 目標の作付面積は、共済で保険にかけられている面積、つまり被害が予想されやすい面積に対する比率であり、一概に被害面積の大きさとは結びつかない。その点について現在の施策指標の標記が分かりにくいため、一文明記するなど訂正したい。

#### ●委員

- ・ 項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・ 異議なし。

## 3 2. 林業の振興

### 3 2 1. 持続的な森林管理の推進 について

#### ●委員

- ・山林境界基本調査の実施後、地籍調査事業の実施について、実績値が平成23年度から220haのままであるが、事業自体は実施されているのか。

#### ○説明者

- ・市有林の境界の確認については、土地の所有者の立会いが必要になるが、所有者の高齢化や所在の有無などにより立会いが困難となっており、事業が進んでいないのが現状である。

#### ●委員

- ・あまりにもかけ離れた目標値ではないか。

#### ○説明者

- ・山林境界基本調査については、地籍調査の前段として平成22年度に国が実施した調査であり、国が実施してから概ね5年で地籍調査に移行するという予定が見込まれていた。当時は市有林を中心に整備するという目的で800haを目標とした。当時の目標値が現状とは見合っていない部分もある。目標設定については見直しを検討したい。

#### ●委員

- ・九頭竜森林組合への助成について、農林関係の入札競争等では、補助を受けて購入した高性能林業機械を持つ森林組合に比べ、民間業者が不利になることもあり、本助成制度は民業圧迫となる側面もあるということを理解いただきたい。民間に対しても手厚い補助が必要だという声もある。

林道、作業道の維持管理について、災害があった場合に林道の復興等は全て市で負担するのか。

#### ○説明者

- ・林道の場合、災害適用を受けたときには国の補助を受けてできることになっている。ただし、補助対象外の部分は管理者が負担することとなる。

#### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。

### 3 2 2. 多様な活動主体による森林活用 について

#### ●委員

- ・企業の森づくりは達成であるのに、民有林での実のなる木の植樹の施策指標が未達成となっているが、どのような意味なのか。

#### ○説明者

- ・民有林とは、国有林以外の私有林と公有林という意味である。企業の森については現在4企業と契約しているが、契約面積の植樹はほぼ終わっており、現在、新しい契約面積を増やす

働きかけをしている。なお、県の事業であるが、勝山市において平成27年から5カ年かけ、花粉のない木の植樹が計画されている。平成28年度は一本松で8,750本のコナラの植樹を実施する予定であり、これが完了すると施策指標の目標も達成される。

●委員

- ・コナラが植樹されるエリアはどこか。

○説明者

- ・浄土寺川ダムの上の方で、長い目で見るとクマ被害の抑制にもつながる。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3.3. 内水面漁業の振興

#### 3.3.1. 水産資源の保護・活用 について

●委員

- ・施策指標 勝山市域における年間のアユ釣り客数について、実績に上がっている数字は市外からの客数か。

○説明者

- ・市外とは限らない。客数については入漁証の冊数で管理している。

●委員

- ・市内外の割合は分かるのか。市外の人の方が割合が多いようなら、他の施策の参考にするなど活用できると思う。また、指標施策が未達成の要因は何か。

○説明者

- ・アユ釣り客については年々増加しており、平成27年度についても賑わいを見せていた印象があるが、平成26年度に比べると減少している。

●委員

- ・アユ釣り業界では勝山の九頭竜川は有名なのか。

○説明者

- ・昨年、全国の川でとれたアユを食べ比べて一番おいしい河川を選ぶ「清流めぐり利き鮎会」に参加したところ、勝山の九頭竜川が準グランプリをとった。九頭竜川のアユの知名度を上げることができたと思う。

●委員

- ・おいしいアユが取れるにも関わらず、市内でアユを食べられる食堂が少ないように思う。

○説明者

- ・なかなか出回っていないのが現状である。



●委員

- ・特に富裕層の観光客からアユを食べたいという声を聞く。

○説明者

- ・今年、補助を受けて急速冷凍機等を購入する予定である。道の駅の整備に向けて出荷体制や新たな加工品生産の動きも見られ、担当課としても働きかけをしたい。

●委員

- ・漁業組合や商工会議所等が協力、連携していくと良い。

●委員

- ・今年度の川鵜の被害はどうか。

○説明者

- ・昨年度は川鵜による稚アユへの被害が多く、見回り等の体制を整えたが、今年は一度も被害の報告はない。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

### 4.1. 効率的で人にやさしい都市基盤の実現

#### 4.1.4. 河川の整備 について

●委員

- ・三谷川河川整備計画の検討について、新体育館が建設されてから大水が出たことないと思うが、この調整池については特に地元の要望を聞いてくれた印象を受ける。

●委員

- ・福井豪雨並の降雨（9.6ミリ/時）があった場合、三谷川河川の浸水被害は想定されるのか。

○説明者

- ・三谷川河川については、10年に1度の大雨（4.8ミリ/時）に耐え得る想定で整備を進めている。福井豪雨や昨今の九州での豪雨並みだと浸水の可能性がある。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 4.4. 快適で雪に強う定住環境の実現

### 4.4.3. 水の供給システムの整備 について

#### ●委員

- ・施策指標 簡易水道の上水道への統合について、施策指標が未達成となっている要因は何か。

#### ○説明者

- ・簡易水道の統合事業について、平成23年度より毎年1施設ずつ統合してきたが、平成27年度中は統合できなかった。この要因としては、国予算による補助金の満額を得ることができず、工事を進められなかったことにある。ただし、地区の要望もあり平成28年4月1日に北野津又簡易水道を統合した。まだ統合していない簡易水道は、北六呂師・暮見・薬師神谷・北郷の4地区である。

#### ●委員

- ・上水道に統合することによる下水料金への影響はどうか。

#### ○説明者

- ・上水道の使用量に基づき、下水道の使用料金を設定する。簡易水道では簡易水道のメーターを読み、下水道の使用料金を負荷している。

#### ●委員

- ・単価は変わるのか。

#### ○説明者

- ・単価は変わらない。

#### ●委員

- ・水洗化がまだ全世帯に至っていない理由は何か。

#### ○説明者

- ・水洗化することで、水周りに係る工事費用が発生する。上下水道課では、未接続のお宅に戸別訪問し水洗化の依頼をしているが、負担が大きくできないと答える方が多い。

#### ●委員

- ・水洗化に対する補助はあるのか。

#### ○説明者

- ・過去には建設課の助成制度があったが、現在は無い。

安定した事業の運営（水道会計）の平成27年度取組結果欄に記載のある滞納額について、訂正させていただく。実際の滞納額は、平成26年度分が8,119千円であり、平成27年度分が6,851千円である。2月・3月分の水道料金は3月10日前後の検針により請求する。納入が3月31日を超えると過年度納付となり、滞納扱いとなってしまう。純粋な滞納額については、今申し上げた金額である。

#### ●委員

- ・滞納者について世帯数ではどれくらいか。

#### ○説明者

- ・数値をもっていないが、かなりの数である。

●委員

- ・滞納すると上水道の支給を止めるのか。

○説明者

- ・まず滞納世帯に対して督促状を通知しており、平成27年度は528件であった。それでも支払わない世帯に対して水を止めるという通知をしている。平成27年度は178件あった。それでもお支払いいただければ止める措置を行う。ただし、少しずつ分納していただく誓約書をいただければ止めることはしない。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

444. 水の処理システムの整備 について

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 【Cグループ】 教育・福祉分野

### 第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

#### 2.1. 健康のまち勝山の実現

##### 2.1.1. 健康づくり活動の推進 について

●委員

- ・施策指標 「健康寿命」の延伸について、こういった方式で数値を算出しているのか。

○説明者

- ・初期設定値をもとに算出している。

●委員

- ・延伸としているが、女性の平成27年度の目標値は0.1歳減少している。平均寿命がなかなか伸びないというなら分かるが、健康で過ごす寿命（健康寿命）が伸びないのは目標設定自体がおかしいと思う。

○説明者

- ・目標値設定の詳細については、次回にご報告する。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし

##### 2.1.2. 保健サービスの充実 について

●委員

- ・がん検診受診率の向上については未達成となっているが、なかなか難しい項目だと思う。市では広報活動をしているし、毎年春先にはがん検診の案内も届いている。ただ、広報活動だけで果たして受診率は向上していくのか。全国と比較しても勝山市は低い感じがする。数値の対象者は国民健康保険加入者のみなのか。

○説明者

- ・勝山市民全体の数値である。ただし、がんの種類によって国の基準があり、検診を受診できる年齢はそれぞれ決まっている。（子宮がん：20歳以上 それ以外：40歳以上）それに基づいて数値を算出している。

●委員

- ・仕事をしている方は職場で検診を受けていると思う。その場合、市の検診はおそらく受けない。そうすると市の検診は未受診ということになるが、そういった方も受診率の母数に含まれてしまうのか。

○説明者

- ・数値については、就業者を除いて算出している。市では、職域を含めた地域別の検診率を出

することはできない。県ではそういった受診率も把握していることから、市町村レベルでも対応できないかとお願ひしているところだが、個人情報の関係で難しいとのことである。

●委員

- ・がん検診の種類はどんなものがあるのか。

○説明者

- ・肺がん・乳がん・胃がん・子宮がん・大腸がんの5種類である。

●委員

- ・それぞれ受診率は異なるのだと思う。漠然とがん検診率の向上と訴えるのではなく、例えば「まず肺がんから」というように、項目をもう少し絞り込んで、住民に訴えかけた方が効果的な気がする。がん検診の案内を受けても、かかりつけ医にかかっているため、あまり気に留めない方もいるのではないか。事務の軽減にもつながる。

PRの内容についても、もっと色々な方向から訴える必要があると思う。例えば「2人に1人ががんになる」とか「3人に1人ががんで亡くなる」といったことを具体的に訴えてはどうか。数値目標が漠然としている気がする。

○説明者

- ・ぜひ検討したい。ちなみに平成27年度の胃がん検診受診率は15.1%で最も低い。実際に胃がんの見つかった方は4名（1,296名のうち）である。

●委員

- ・すごくいいデータだと思う。そういったことをどんどん周知すると、市民にも重要性が伝わると思う。がんを身近なものだと意識させることが大切だと思う。

○説明者

- ・胃がん検診については、そういった情報を広報に掲載している。なお、平成27年度の大腸がん検診受診率は24.4%であり、見つかった方は4名（過去5年間：20名）、肺がんは29.4%で、見つかった方はいない。（過去5年間：6名）子宮がんは28.6%で、見つかった方はいない。（過去5年間：なし）乳がんは24.1%で、見つかった方は2名である。（過去5年間：10名）ご提案を踏まえ、啓発の方法を検討していきたい。

●委員

- ・がん検診に行きたいが、子育て世代にはなかなか行くタイミングがない。具体的に実際の数値を示してもらえることは良いことだと思う。

●委員

- ・市の市民大学等ががんのプロフェッショナルを招いて、講演会等を実施したことはあるのか。

○説明者

- ・すこやか健康講座というものがあり、その中でがんについて学ぶ機会を提供している。また、今年10月には肝臓に特化した講演会の開催を予定している。健康長寿課に相談いただければ、各地区において講座を開催することも可能である。PRしているがなかなかそういった情報は市民の皆さんに届かないこともあり、今後も積極的に情報発信していく。

●委員

- ・講座の内容は知識を提供するものか、それとも体験談を紹介するものなのか。知識を得るこ

とはもちろん重要だが、体験談を聞くことはがんを身近に感じるとてもいい機会だと思う。以前に山田邦子さんの講演会に参加したが、ものすごい参加者数だった。有名な方を呼ぶのがいいということではないが、体験談を紹介する講演会もぜひ検討してほしい。クーポンに期限はあるのか。

○説明者

・ 1年間である。もちろん、クーポンがなくても受診券は随時お送りする。

●委員

・ 母子保健事業の充実について、各地区のイベントで保健推進委員の皆さんが地区で生まれた赤ちゃんの写真展を長い間、開催し続けている。とても素晴らしい取り組みであり、今後も頑張ってもらいたい。

●委員

・ 施策指標 「乳幼児健診の平均受診率」について、未達成となっているが特にどの年齢での健診率が低かったのか。

○説明者

・ 1カ月健診はほぼ100%である。9・10カ月健診率はやや低く91.4%であった。未受診の方には電話で受診のお願いをしているが、特に9・10カ月健診の時期は母親の育児休暇が終わる時期であり、どうしても低くなってしまふ。未受診の方については訪問する等して状況の把握を行っている。

●委員

・ 項目の評価について異議はないか。

●委員

・ 異議なし。

## 2.2. 安心して暮らせる長寿社会の実現

### 2.2.1. 高齢者の自立支援の推進 について

●委員

・ 自立支援に向けて、いろいろな取り組みを実施しており、参加者も大勢いる。高齢者自身の意識も高いのだと思う。それがきちんと結果に表れているのだから、引き続き取り組みの推進をお願いしたい。

●委員

・ 項目の評価について異議はないか。

●委員

・ 異議なし。

## 222. 高齢者介護体制の充実 について

### ●委員

- ・施策指標 「介護サービス利用率」とは、どういう数値なのか。

### ●委員

- ・サービスを受ける対象（母数）が決まっており、その中でこれだけ利用率があるということなのか。

### ○説明者

- ・介護サービスを受けられる方については、要介護認定調査により判定をしている。（8段階）判定を受けた方が、どれくらい介護サービスを受けたのかということで算出しているのがこの数値である。

### ●委員

- ・この数値を出す必要があるのかとも思ってしまう。

### ○説明者

- ・設定当初は、サービスを必要とする方に対し、どれくらい行き届いているのかを把握するために必要だと考えていた。しかし、現在は予防に力を入れていることもあり、要支援認定を受けていても介護サービスでなく、湯ったり勝山の「お出かけサロン事業」のような予防事業への参加者が増えている状況である。施策指標を見直す必要がある。

### ●委員

- ・介護については在宅介護サービスの浸透状況を指標としてもよいのではないかとも思う。

### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

### ●委員

- ・異議なし。

## 223. 高齢者総合相談・支援の充実 について

### ●委員

- ・地域包括支援センターやすらぎの周知と総合的な相談機能の強化について、サンプラザ内のまちなかカフェはとてもよい取組みだと思う。高齢者でも比較的元気な方はああいう機会を利用することは多いと思う。良い着眼点だと思う。相談窓口もあるのか。

### ○説明者

- ・社会福祉協議会の職員が常駐し、相談にのっている。

### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

### ●委員

- ・異議なし。

## 23. 福祉のまちづくりの実現

### 231. 障がい者福祉の充実 について

#### ●委員

- ・施策指標「障がい者の社会参加率」（地域行事やスポーツ、文化活動など）について、未達成となっているが、これは意識調査を実施した結果ということなのか。

#### ○説明者

- ・もともとは平成20年度の住民意識調査をもとに数値を算出した。調査は5年ごとにしか行わないため、最新の数値は平成25年度のものである。ただし、この数値は主観的なものであり、本人の考え方によって数値も変動することとなる。計画の見直しに合わせてあり方を検討したい。

#### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。

### 232. 生活困窮者への支援 について

#### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。

### 233. 地域福祉策の充実 について

#### ●委員

- ・結婚対策事業の推進について、実績として19件はなかなかすごいと思う。ただ、個人的にだが、市内には男性の独身者が非常に多い気がする。そういう方には女性と交流する機会がないのではないかなと思う。市がこういうイベントをどんどん推進してほしい。まちなかの居酒屋とのタイアップによる合コンのようなイベントもよいのではないかな。

#### ○説明者

- ・例えば民間の街コンのようなものを市主催で実施することはなかなか難しい。市が実施するからには、責任をきちんと持ち、独自の工夫を凝らして実施したい。

#### ○説明者

- ・大阪特殊合金等に参加者をお願いし、今週の土曜日から年間シリーズのお料理イベントを実施する。年間を通じた交流で、親しくなっていだければと思う。出会いに対して積極的な方は合コン等を自分たちで楽しむのだが、市のイベントに来られる方は少しそういうことが苦手な方もおられる。

また、市内でのイベントに参加して、知り合いに見られることを嫌う方もいる。そのため、市外で実施する方が参加者も多い。



●委員

- ・結婚相談員は各地区に1人以上配置されているのか。相談場所はどこなのか。

○説明者

- ・10名おられるが、各地区に配置されているわけではない。相談はすこやかにて第2・4木曜日に行っている。

●委員

- ・どんな方が来るのか。成果はあったのか。

○説明者

- ・本人もしくはその親が本人の了解を得て来られる。現在、2件が進行中であり、見守っているところである。

●委員

- ・イベントに参加できるのは勝山市の方のみなのか。

○説明者

- ・男性はそうだが、女性は市外でもよい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 24. 子育て支援日本一の実現

### 241. 子育て支援策の充実 について

●委員

- ・子ども医療費助成の充実について、多子世帯の家庭には本当にありがたい制度だと思う。今後も事業を続けていただきたい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 242. 子育て環境の充実 について

●委員

- ・子どもの居場所づくりについて大都会から比べると、市には待機児童もなく、保育料は3人目から無料であり、自慢すべきことである。市外に向けても、こういった情報をどんどん自信を持って発信してほしい。

○説明者

- ・HPではそういった情報を発信している。市内の方には当たり前となっているが、転出した

方からは「勝山はよかった」という声を聞く。特に、児童センターが無料なのは県内で勝山市だけである。県外の市からの視察があるほどである。もっと工夫してPRしていきたい。

●委員

- ・絶対に強みである。どんどん自慢して、人を呼び込んでほしい。市内になかなか就業先はないかもしれないが、住民の定着にはつながる可能性がある。ベッドタウン化するという手段も考えられる。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 25. 安定した医療、保険、年金制度の実現

### 251. 地域医療体制等の充実 について

●委員

- ・施策指標 「かかりつけ医」を持っている市民（50歳以上）の割合について、結果の数値自体が高いのか低いのかよく分からない。個人個人の意識の中でそう思っているだけであろう。ただし、かかりつけ医を持つこと自体は非常に大切なことであり、引き続き啓発してほしい。

勝山市医師会がかかりつけ医をどのように意識しているのか。そちらからのアクションもかかりつけ医を持つことに効果を発揮するのではないか。

○説明者

- ・医師からも、病気になってからいきなり受診するより、普段からかかりつけ医を持ち、医療機関にかかってほしいと言われている。市も医療機関で健診を受けることを通じ、かかりつけ医を持つことについて推進している。

●委員

- ・がん検診受診率の問題もあったが、そういったことと連動させて啓発していくとよいと思う。色々な項目を切り分けずにセットにしてシンプルに考えられるとよいと思う。

●委員

- ・いつも病院がすごく混んでいる。どの病院もそんな状態なのか。

○説明者

- ・曜日によって異なるが、確かに混んでいる病院は多い。

○説明者

- ・かかりつけ医を持っている市民の割合についてだが、全国での数字をご報告すると、50歳代では60.7%、70歳以上では70.9%となっている。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

252. 安定した国民健康保険制度の運営 について

●委員

- ・施策指標 メタボリックシンドロームの人の割合の縮減について、数値はどうやって算出するのか。

○説明者

- ・健診を受けた方の割合である。

●委員

- ・メタボリックシンドロームの予防対策の対象はどんな方か。

○説明者

- ・国民健康保険被保険者の方で、特定健診を受けてメタボリックシンドロームとされた方である。当然そうでない方向けの健康づくり教室や生活習慣病予防対策も行っている。

●委員

- ・新体育館でメタボ予防の教室をぜひとも行ってほしい。改善しようと真剣に考えている方はなかなかいないのではないかと思う。

○説明者

- ・新体育館内にはウォーキングができる設備やトレーニングルームが整備されており、これらを使った活動を考えている。

●委員

- ・トレーニングマシンがあるからぜひ行ってくださいというだけでは、なかなか参加者は集まらないと思う。色々なプログラムを組み合わせたり、成果が分かる仕組みがあれば本人のやる気にもつながり、参加者も増えるのではと思う。

●委員

- ・スマートフォンのアプリを使ったメタボ予防策もよいのではないか。

○説明者

- ・いただいたご意見を参考に、予防策を考えていきたい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 26. 安全安心に暮らせるまちの実現

### 262. 救急体制の充実について

#### ●委員

- ・小児救急医療事業の継続について、子どもの緊急時に、間違った対処をしてしまう親を見かけることがよくある。正しい処置方法を浸透させるにはどうしたらいいのかと思う。

#### ○説明者

- ・子どもの救急時の対処法冊子の配布や小児科医の先生による講演会を保護者が集まる場所で行ったりしている。繰り返し行い、浸透させていきたい。

#### ●委員

- ・話を聞くだけでなく、研修の形で実施するとなおよいと思う。

#### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。

### 263. 総合的な防災体制の確立 について

#### ●委員

- ・地域の支え合い体制づくり事業の推進について、地域によってかなり格差があると思う。避難行動要支援者登録を形式的には行っているが、日中にもし災害があった時に、実際に誰が駆けつけるのかというところが結局問題となる。自主防災組織をしっかりと持っている地区は良いのかもしれないが、ないところはなかなか難しいと思う。要支援者の把握はもちろん大切だが、今後さらなるステップアップが必要だと感じている。

#### ○説明者

- ・おっしゃるとおりである。まず情報把握が必要だと考え、登録を行っている。それによりこの家にはこんな人がいるという情報を台帳管理できる。それを有事に活用し、対処するにあたり、防災組織がしっかりしている所はよいのだが、そうでない所は対応できないこともあると思う。市では防災士の育成や研修を行っているが、なかなか難しい問題である。

#### ●委員

- ・普段から危機感を感じている。自主防災組織に頑張ってもらうだけでなく、市としても支援策をしっかりと考えていかなければならないと思う。

#### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。